

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設は SPring-8 に播磨分室を設置し、放射光連携研究機構（現：放射光分野融合国際卓越拠点）と共に建設・整備を進めてきた高輝度軟 X 線ビームライン BL07LSU を利用して 2009 年度より放射光利用実験を行っています。アンジュレータービームラインおよび 3 つのエンドステーション（時間分解光電子分光、3 次元ナノ光電子分光、軟 X 線発光分光）は順調に稼働しており、フリーポートステーションでもそれぞれ特色ある装置を用いての実験が展開されています。研究成果の論文出版数も順調に増加しており、国内外の研究者からのビームタイム申請も増加の一途を辿っています。また最近の特徴として、時間分解分光やオペランド分光による化学反応、生体物質などの測定から新しい研究分野が生まれつつあり、物質機能の解明に向けたアプローチが明確になってきたことが感じられます。

ワークショップには当方の予想を超える多くの方々にご参加いただき、活発で有意義な議論がなされました。コミュニティの皆様のご参加とご支援に深く感謝いたします。

東京大学物性研究所 和達大樹、辛埴、小森文夫、松田巖、原田慈久
(ISSP ワークショップ世話人)